

東北の一日も早い復興のために協力したいけど…

災害廃棄物って安全なの？

震災がれきの「これまで」と「これから」を教えて！

東日本大震災の被災地に対し、市では昨年3月の東日本大震災直後から、一日も早い復興を願い、出来る限り、またそれ以上の気持ちで東北への支援を続けてきました。その一環として、被災地の災害廃棄物を安全に処理することで、東北の復興のための支援ができればと考え、岩手県の災害廃棄物を市内で処理する方針を表明しました。一方で、災害廃棄物の受け入れに関して、さまざまな意見や質問が市に寄せられています。今回の特集では、災害廃棄物や放射線の基礎知識を説明します。

市では今後も、市民の皆さんの暮らしの安全・安心を確保するための対策を、できる限り尽くしていきます。



福島第一原子力発電所からの距離

島田市 / 約385km
大槌町 / 約230km
山田町 / 約240km
新宿区 / 約225km
横浜市 / 約250km



復興の 礎に ⑥

岩手県山田町と大槌町の災害廃棄物の受け入れを正式に表明
東北の復興を支援するために
知って欲しい災害廃棄物の話

発災

想定をはるかに超えた規模の大地震と津波は、瞬く間に人々の生きた証を災害廃棄物へと変えた。

災害廃棄物ってどんなごみ？

災害廃棄物とは、地震や津波などの災害で発生した廃棄物です。岩手県と宮城県では、東日本大震災の津波によって倒壊した家屋や、海水を被った家財などの災害廃棄物が大量に発生し、その処理を急いでいます。

災害廃棄物は、ただのごみではありません。主に、倒壊家屋や家具、衣類や電化製品、コンクリートや草木類など、被災者の皆さんが大切にしていた財産です。

市ではそのうち、住宅の木製主材や角材を現地で破碎・選別した「木材チップ」を受け入れます。

広域処理って必要なの？

岩手・宮城の両県では、全力で災害廃棄物の処理を行っています。処理施設の不足などにより、思うように進んでいません。

市が受け入れを表明した岩

災害廃棄物って何？



被災地の時計を巻き戻すことはできません。しかし、被災者は立ち止まっているわけではなく、まっすぐに進んでいきます。誰かを責めたり、待たせたりするのではなく、自らの力で前へ進んでいきたいと望んでいます。

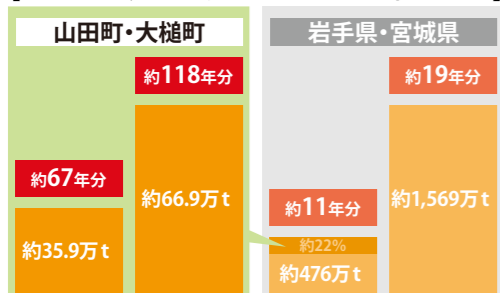
しかし、その障壁となっているのが、震災で発生した災害廃棄物。目の前に堆く積まれた思いの品々が、心の復興を妨げているのです。

そこで、市は3月15日、岩手県山田町と大槌町の災害廃棄物の本格受け入れを表明しました。



山田町の災害廃棄物処理施設で沼崎町長と固い握手を交わす桜井市長

【東日本大震災で発生した災害廃棄物の量】



※各県・各町で1年間に排出される一般廃棄物の量との比較

放射線って何？



放射線と放射能の違いは？

「放射線」は物質を通過する力を持った電磁波および粒子線で、人体に影響を与えます。この放射線を出す物質のことを「放射性物質」といい、放射性物質が放射線を出す能力を「放射能」といいます。たき火に例えると、たき火自体が「放射性物質」で、たき火から出る熱が「放射線」、たき火の炎の強さが「放射能」です。たき火が大きいほど熱くなるように、放射性物質の量が多いほど、出てくる放射線が多くなります。



また、たき火から離れるほど、熱くなるように、放射性物質から離れるほど、そこに届く放射線の量は少なくなります。

ベクレルとシーベルトって？

ベクレル (Bq) という単位は、放射能を表す単位で、放射性物質が放射線を出す能力を表します。

シーベルト (Sv) という単位は、放射線量を表す単位で、放射線が人体に与える影響を表します。

たき火にたとえると、たき火の炎の強さを表す単位がベクレルで、たき火の熱さを表す単位がシーベルトです。残留放射能濃度は1kg当たりの値とし、ベクレル/kgと表します。

ミリ (m) シーベルトはシーベルトの千分の1、マイクロ (μ) シーベルトはミリシーベルトのさらに千分の1 (シーベルトの百万分の1) です。

なぜ島田市なの？



被災地内で処理できないの？

被災地では、災害廃棄物を一時的な「仮置場」に移動しています。しかし、仮置場をさらに確保することは地形的に難しく、現在では災害廃棄物が山積みされ、自然発火の危険性も高まっています。

すでに岩手・宮城両県では、仮設焼却炉4基が稼働しており、現在整備中のもも含めて合計25基にのぼる仮設焼却炉が今後稼働する予定です。それでもなお、処理能力と最終処分場の残余容量が不足しており、新たに整備するにも長い期間を要します。

被災地の復旧・復興において、日本全体で災害廃棄物の処理に協力することが不可欠なのです。

島田市がなぜ受け入れるの？

国と県から、震災による災害廃棄物の受け入れ要請がありました。市には、それを効率的かつ安全に処理できる最

- 新の溶融炉があり、計算上で日量40t程度の余剰処理能力があります。広域処理は、東日本震災の被災者の皆さんの一日も早い復興に協力する手段と判断し、受け入れを表明しました。
- これまでの経緯は？**
- 平成23年11月10日／県市長会・町村会が受け入れ協力の共同声明を発表
 - 12月13日／市長が自治会長連合会の会合で受け入れ方針を説明
 - 12月24日／細野環境相が町内会長らに協力を要請
 - 平成24年1月11日／伊太地区で住民説明会を開催
 - 1月13日／初倉地区で住民説明会を開催
 - 1月27日／市長が試験溶融の実施を表明
 - 2月10日／岩手県山田町から災害廃棄物10tを搬出
 - 2月15日／田代環境プラザで災害廃棄物の搬入を開始
 - 2月16日／試験溶融を開始
 - 3月12日／試験結果を公表

現状

全国で遅々として進まない広域処理。しかし、全国で受け入れを拒めば、被災地が切り捨てられる。

知識

聞き慣れない専門用語や単位。新聞やテレビの情報と向き合うためには、正しい知識が欠かせない。

健康被害はないの？



放射線と病気の関係は？

放射線は、一度に大量に浴びると、人体に影響が出ます。これまでの調査研究から、数百ミリシーベルト以上の放射線を浴びた場合に、健康被害を受けることがわかっていきます。しかし、100ミリシーベルト以下では、一貫した症状は確認されていません。

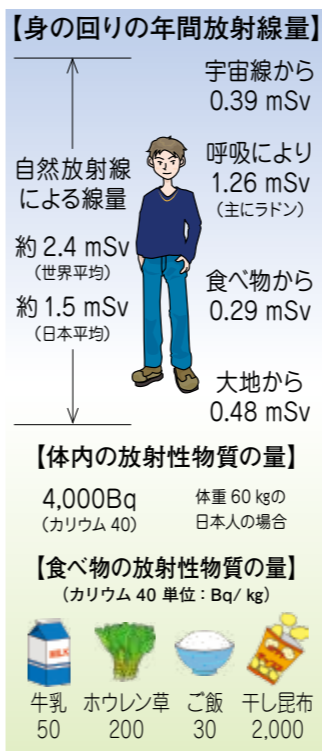
放射線は恐ろしい？

私たちの身の回りには、もともと自然に放射線が存在します。宇宙から、大地から、そして食物にも、放射性物質が含まれています。また、空気中にはラドンという放射性

物質が存在し、放射線を出しています。つまり、私たちは常に微量の放射線に囲まれて生活しているのです。

例えば、カリウムは自然界に存在するミネラルの一種で、人間の体内で塩分を低下させ血圧の上昇を制御するなど、健康を保つために必要不可欠な成分です。このカリウムには、カリウム40という放射性物質がごくわずか(0.01%程度)含まれています。

このカリウム40も、食べ物と一緒に体内に取り込んでいます。これらの放射性物質は、時間の経過とともに放射能が低くなり、新陳代謝されて体内でほぼ一定の値となります。



災害廃棄物は安全？



放射線量は大丈夫？

広域処理の対象となる岩手県・宮城県の沿岸部の災害廃棄物は、処理の過程で「健康に影響を及ぼさない」という安全性が確認されたものだけです。

受入期間は、平成26年3月までの予定で、日量10〜20tを処理する計画です。

安全基準の設定は？

放射性セシウムの濃度が、240〜480ベクレル/kg以下の災害廃棄物が、広域処理の対象の目安となります。

しかし県では、その受け入れ基準を更に厳しくし、100ベクレル/kg以下の災害廃棄物しか受け入れないこととしています。

可燃物を焼却すると、焼却灰(島田市の場合は溶融するため飛灰)に放射性セシウムが濃縮されますが、最も厳しい条件で評価しても、国の埋め立て規制値の8000ベクレル/kgを大きく下回ります。この焼却灰を埋立処分した後の処分場周辺の放射線量は、年間0.01ミリシーベルト以下。一般公衆の年間線量限度1ミリシーベルトの100分の1以下です。

【日常生活と放射線の量】(年間量)

